

安保法、原発、沖縄をはじめ、 強まる地域での活動

日退教通信

No. 363

2015.11

日本退職教職員協議会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館5F
 発行責任者 竹田邦明
 TEL 03(52775)2197 FAX 03(52775)2081
 E-mail: hntaiky@gnail.com ホームページURL: http://www.hntaiky.com

第21回組織活動交流集会

10月16日



特別報告 富井恭二さん
(大阪府退教副会長)



組織現況と基調報告
平岡良久さん
(日退教組織部会長)

日退教の組織活動交流集会は、新たに21年目に入りました。今年度は、安倍内閣の本音が露骨に表れましたが、鹿児島川内原発の再稼働、沖縄辺野古新基地建設、安保法案の強行採決などに対して、全国各地で多くの一般市民が立ち上がりました。日退教も、各地で運動を展開するとともに、それぞれ特徴のある活動をしていることが報告されました。

特別報告は、大阪府退教「憲法9条を誇りにする会」が、「フクシマを訪ねる旅」カラー版冊子(72ページ)を作成して報告をしました。参加者には1冊

私たちも忘れない!
 新しい出会いと発見の旅-第10回「誇りにする会」フィールドワーク「フクシマを訪ねる旅」の記録

熊鷹中学校の辺野古視察の記録は、でも私たちには届きませんでした。(7/28)

平野の森から見たフレコ・パワの山。緑木が生えている水田。裏手に張り出した屋根の形。暑い日差しを浴びて歩いていく。数々の思い出。4年半経過後に「福島」はすべて異なる。

多岐を極める中で福島の特産品の皆さん方は、大層で押しかけた私たちを温かく迎えてくださいました。
 「フクシマ」を、「過去の出来事」に留めず、未来に向けています。

2015年7月30日～8月1日
 大阪府退職教職員 憲法第九条を誇りにする会

特別報告の冊子

ずつ配布をしましたが、30部ほど残部がありますので、希望する単会・個人にお分けします。なくなり次第打ち切ります(先着順)。日退教通信と一緒に配布します。

「平和・組織」

第1分科・分散会

◆レポート名

- ① 戦争を語りつぐとくろくみ 加登 康宏(北退教)
- ② 原発事故4年半経過の福島の現状と課題 住谷 圭造(福島退教)
- ③ 宮城における「安保法制法案」(＝戦争法案) 反対運動の動向と宮城退教協の取り組みについて 酒井 孝夫(宮城退教)
- ④ 沖縄と連帯する取り組み 本村 富美子(東京高退教)
- ⑤ 新基地建設を許さない! 辺野古の現在(イマ) 安次嶺美代子(沖縄高退教)
- ⑥ 公開研究講座「平和と教育交流集会」に参加(推進)して Ⅲ 上瀬 雅美(石川退教)



加登康宏さん
(北退教)



住谷圭造さん
(福島退教)

① 北海道退教からは、現退一致の「戦争を語る会」の取り組みが報告された。1995年、北教組は「戦後50年」という節目に平和教育・平和運動の前進を求め「戦争史実の掘り起こし

運動」を提起。これを受けて各地区（支部）で空襲等の史実の掘り起こし、戦争体験者の声を聞く運動が活発化。中でも中空知支部では「開放講座」を年数回設定。2001年から戦争を風化させないための語り部活動を展開。

2013年、「戦争を語る会」活動の継続を巡って、北教組執行部と中空知退教役員会の協議は合意に至らなかったが、安倍政権の「集団的自衛権行使容認」の閣議決定以降、会の再開を決意。2014年には退教主催の「戦争は教育から始まる」講師・兼古哲郎さん）を開催。2015年には「沖繩戦として戦争法案」を開催。共に大きな感動を呼んだ、などの数々の実践が報告された。



酒井孝夫さん
(宮城退教)



本村富美子さん
(東京高退教)



安次嶺美代子さん
(沖繩高退教)



上瀬雅美さん
(石川県退教)

など終わりが見えない。この様な状況にも拘わらず、原発事故を風化させようとする動きがある。

双葉の学校に戻ってきた生徒は657名（2014年現在）に過ぎず、これは僅か3分の1の生徒数である。特に問題なのは、廃棄物を置くところが無いなど原発事故後の後始末がなされていないこと。「千年に一度」でも大地震・原発事故が起きたときにどうするかを全く考えられていない。再稼働はありえない。今、考えなければならぬことは、8,000人の原発作業労働者の問題。賠償問題も含め東電の姿勢が大問題である。今後も報告を続けて行きたいと締めくくられた。

動の広がりを見せる原動力となった。5月25日の集会の呼びかけ人は各界各層から118人。菅原文太さんからメッセージが寄せられた。等々の多くの集会を企画・実行してきた。

2015年3月7日の宮城県民集会には163の賛同団体から55万円、324名の個人から77万円のカンパあり、以降の軍資金となる。8月30日の「国会10万人集会」には、宮城県からもバス数台で参加強行採決後も緊急県民集会を持っている。今後は11月7日に向けて各団体の共闘が進められているとの将来展望が語られ、報告を終えた。

日退教と共催で「辺野古・高江連帯ツアー」を企画し、神奈川・神奈川県・石川県・福岡県各退教も併せて30名の参加。沖繩県・高退教の全面的な協力を得て充実したツアーとなった様子が、豊富なカラー写真とともに報告された。ゲート前での座り込み・和やかな抗議集会・激しいデモ行進の様子が語られた。2日目の夜の交流集会には名護市長稲嶺さんが飛び入り参加。特に沖繩知事選で翁長さんを立て「オール沖繩」で勝利した経験に学ぶ大切さや、日本国憲法の上に安保法制が存在することを実感して帰ってきた旨が報告された。

④ 都高教退職会からは「沖繩と連帯し、辺野古新基地・高江ヘリパットに反対し、普天間基地の撤去をめざす取り組み」が報告された。都高退教は従来から日退教の沖繩交流団の一員として会員が交代で参加してきた。その一環として3月に沖繩に行き、現地を訪れることの大きな意義を感じた報告者は、「標的の村」自主上映を思い付き4月の上映をきっかけとして、7月に

護市に「辺野古ありき」で強行されようとしている。

しかし民意は2010年・2014年の名護市長選挙、11月の知事選の「オール沖繩」での勝利。12月の衆議院選挙。いずれも辺野古新基地建設反対派が勝利している。民意は示されているのだ。沖繩は戦後70年間の安保体制の犠牲。かつての様な悲劇を繰り返させないの思いで、私達県民は座り込んでいる。

⑥ 最後に退職者を中心にした、いしかわ教育総研の活動が報告された。特に強調されたのは全員当選に全力を挙げた統一自治体選挙。これまでにない厳しい状況のなかで、退職者が中心となりながらも現退一致の活動で県議2名、市議4名の全員当選を果たすことが出来た。

なんとしても戦争法案廃案の闘いは県退教協も可能な限り参加。「ピーステント」は憲法を守る会、石川県法会議など8団体で構成され、法案成立後も毎月19日には抗議集会を開くなど廃案に向けての闘いを展開している。

更に教育総研の公開研究講座「平和交流集会」に参加してのレポートを基に9つの資料をも併せ、その実践が述べられた。

「教育・人権・組織」

◆レポート名

① いわて教育文化研究所における平和の取り組み

小西 寛（岩手高退教）

② 現退一致で取り組んだ「戦争法」阻止の闘い

石野 公久（新潟高退教）

③ 教科書採択の取りくみと歴史・公民教科書問題点について

高橋 勇（埼玉退教）

④ 組織拡大・強化と退教協の目的

河下 卓司（愛知退教協）



高橋 勇さん
（埼玉退教）



石野公久さん
（新潟高退教）



小西 寛さん
（岩手高退教）



平川欽一さん
（熊本県退教）



河下卓司さん
（愛知退教）

各支部の現職の取りくみにも協力を呼びかけ、退職者の会各支部でも



平野直比古さん
（千葉県退教）



入澤 稔さん
（新潟県退教）



清水明美さん
（滋賀退教）



坂本伊左雄さん
（愛媛退教）

「福祉・文化・組織」

第3分科・分散会

◆レポート名

① 組織拡大に向けた取り組み

平野直比古（千葉県退教）

② 県議選・市議選の取り組み

入澤 稔（新潟県退教）

③ 仲よくやってます 滋賀

集会などが行われた。
③ 埼玉退教からは、現退一致に取りくみ、育鵬社以外の教科書採択に至ったことが報告された。「埼玉教育フォーラム」主催の学習会を各地で開き問題点を市民とも共有。背景には幅広い市民運動と組織運動の結合がある。市教委への要請書や退職者に展示会参加を呼びかける取り組みも行った。
全国の状況も報告され、沖縄八重山地区で圧力がかかったが、竹富町がはねのけた例も挙げられた。中等教育学校に育鵬社採択がある傾向も指摘された。
④ 愛知退教のレポートは組織の実態と課題報告である。組織率低下や財政上の課題は

あるが、ねばり強く退教協の周知を図っている。現退一致で「愛知の教育をよりよくしていく」という目的を確認する重要性が語られた。
各県の情報交換もあった。職員録がなくなり住所把握できない、いくつかの退職者組織の違いが理解されていない等の話も出た。
⑤ 熊本県退教からも現状と組織拡大に向けての取り組みがレポートされた。加入の取りくみは、退職時の加入呼びかけが重要、元同僚の呼びかけが大きな力と報告された。討議では、再任用制度ができたが、60歳代の加入をすすめる必要性や、再任用の労働条件等への取りくみも必要との指摘もあった。

賀！
清水明美（滋賀退教）
④ 愛媛退教協の組織の現状と活動状況
坂本猪左雄（愛媛退教）
⑤ 緑の大地に根付かせる「緑の奨学会」設立や活動状況の報告
後藤宏二（大分県退現教）
① 館山市を中心とした安房支部の組織拡大に奮闘している現状報告である。加入を呼びかけても、「もう組織などに縛られたくない、自由でいたい」というのである。これは教職員に対する管理強化と多忙化攻撃の結果だと思ふ。このことを心に刻みオルグした結果、親の介護に大変な方々を通して見えるこの国の福祉の貧困の問題や、個人の健康の問題でなかなか自由になれないでいる現実がある。退教に入会することがこの社会に生きる最も人間的な生き方だと訴え拡大を進めている。
② 柏崎刈羽支部の県議選・市議選の取り組みである。この地域は、柏崎・刈羽原発を抱える保守色の強い地域で、再稼働に向け積極派と反対



後藤宏二さん
(大分退現教)

派・慎重派が拮抗している。県議選の定数は2名で、以前から自民党が2議席独占してきたが、この4月に行われた統一地方選挙で反原発・反再稼働を掲げ、市議であつた女性を県議選に建てトップ当選を果たした。

市議選でも、53歳で退職をした教師を全面支援し当選を勝ち取ることができた。

③ 滋賀県は退女教と日退教が一緒の結合県として結成され30余年である。常に男女が力を合わせて現・退一致で取り組んでいる。特に、会員が中心に行う「心の電話相談」も発足当初から行われている。現・退一致の取り組みでは、選挙活動や教育研究活動をして反戦・反原発の活動である。ふれあい活動も春と秋の年2回行っている。

④ 愛媛の会員は少数であるが、毎年5月には定期総会を開催し、四国4県持ち回りの日退教・日教組四国地区協議会・幹事会にも参加している。8月には囲碁将棋大会を開催し、秋には四国プロク囲碁大会に代

表を送っている。安保法案反対活動では、戦争をさせない千人委員会の活動に参加した。伊方原発運転差し止め訴訟にも会員が原告となり、毎回原告席、傍聴席を抽選で決めるなど、多くの参加者で被告席を圧倒している。

⑤ 豊後大野支部で、新規就農希望者の育成支援のために設立した「緑の奨学会」の活動報告である。2010年11月24日に「緑の奨学会設立総会」を豊後大野教育会館で行い、40名の賛同会員が参加した。将来、豊後大野市に定住し、農林業に従事しようとする志のある生徒に対し、高校進学時に10万円の奨学金を贈呈する。定員は5名である。今年で5年目を迎えるが、毎年定期的に心境報告をしてきている。規約では25歳までに就農しなければ奨学金は返金するようになってきている。

朝鮮に対する 日本の侵略を学ぶ旅 多くの成果を上げて 終える



明成皇后120年忌辰祭 終了後の記念撮影
2015年10月8日 韓国南楊州にて

第2回東アジア海外研修旅行を10月6日からの3泊4日間で実施をしました。昨年は、11名の参加でしたが、今回は38名の参加になりました。今年も、敗戦70年、日韓条約締結50年そして朝鮮王朝第26代高宗国王の妃である明成皇后(閔妃)を日本人らが暗殺してから120周年という節目の年にあたりました。

しかし、日本の侵略にたいする歴代日本政府の責任の取り方が極めて不十分であり、多くの教職員がそれぞれ政府に対して不信感を抱いていました。

それが、安重根記念館、西大門刑務所跡、景福宮明成皇后暗殺場所、独立記念館、独立宣言を発したタプコル公園、戦争と女性の人權博物館、29字委員会見学、

120周年忌辰祭(法要)参加、李方子・浅川巧墓参をし、更に、見識豊かな現地ガイドの説明により、多くのことを学ぶことが出来ました。アンケートもおおよそ半数の参加から集まり、来年も参加したい、日退教の旅には必ず参加したい等、期待が寄せられています。日退教は、第3回東アジア海外研修旅行をさらに有意義なものにしたいと、今から取り組んでいます。

今後の日程

- 第5回役員会・第2回プロク代表者会議で提案(2016年3月)
- 日退教通信第365号で募集(4月)
- 「悠悠ライフ」で募集(7月末 締切)
- 実施(9月下旬ごろ)

◆編集後記◆

「戦後70年」の読書から。「ベルリンに一人死す」ハンズ・ファラダ著 赤根洋子訳
第二次大戦下ベルリン。息子の戦死を機に、ある夫婦が知らない誰かに葉書を書く。「総統は私の息子を殺した」。葉書を公共の場に置いてくるまでの葛藤、葉書を見た人の反応……波紋が生じる。悲しみや怒りは他者に伝わり、人々は連帯するのだろうか。権力の末端に繋がる人間は、自分の行動を肯定できるのだろうか。実話を元にした小説。

「HHH プラハ、1942年」ローラン・ビネ著 高橋啓訳。

表題は「ヒムラーの頭脳はハイドリヒと呼ばれる」の意。ナチス高官ハイドリヒの暗殺とその後を描く。ナチスの権力、レジスタンス、密告、無実の罪……これはフィクションなのか、ノンフィクションなのか。「事実として分かることだけ書く」と何度も語る著者は、創作活動の意味や歴史をも問いかける。

本を閉じ考える。「昔の遠い国の話？」歴史は、終息したもたけざるを得ないものなのだと突きつけられた気がする。「おわびはおしまい」と言い出す首相のいるこんな今だからこそ、出えて良かった本だった。

(た)